

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第25回総合企画専門委員会の審議概要について

1 開催概要

- (1) 日時 令和元年7月18日(木) 15:00~17:00
サンセール盛岡3階瑞雲
- (2) 出席者 委員7名(2名欠席)(名簿は別紙のとおり。)
- (3) 議事
 - ① いわて復興レポート2019について
 - ② 復興の取組と教訓を踏まえた提言集(仮称)について
- (4) 報告
東日本大震災津波伝承館の整備について

2 正副委員長の選任

委員長に岩手大学 齋藤徳美名誉教授が、副委員長に岩手県立大学 高嶋裕一教授が選任された。

3 審議結果の概要

(1) いわて復興レポート2019について

主な発言内容は次のとおり。

[谷藤委員]

- ・ 復興レポートの記載内容についての異存はないが、定住人口が増えない限り、地域経済の回復は見込まれない。今後どのように対策を行っていくのが重要である。

[齋藤委員長]

- ・ 被災前から地域経済の疲弊は始まっており、復興によって元に戻したとしても、右肩下がりの状況に変わりはないことから、これからの三陸をどうしていくのか、ビジョンを持ち、復興と地域創生を表裏一体で進めていかなければならない。

[菅野委員]

- ・ これまでの実績について、ハード関係は整備状況のみでもわかるが、ソフト関係については施設の復旧整備状況だけでなく、その後どのような効果が出たかという記載が必要だと考える。

[小野寺委員]

- ・ 復興意識調査について、調査開始当初から、沿岸部の方が復興の進捗が進んでいると感じている人の割合が多い傾向にある。内陸部の方が現地を見る機会が少ないことから、復興の進捗を直接感じる機会が少ないためだと思うが、別の視点で見ると、内陸の方々に対しての広報が十分でなかったとも言えるのではないかと。

[広田委員]

- ・ 地域の人口減少対策としては、子どもの出生率と県立高校の進学率が特に重要であり、これを中心に移住定住対策を本格的に進めていく必要がある。移住対策については、特にソフト面での対策が重要であり、移住者に対して仕事だけでなく、スポーツ等の趣味のコミュニティなど広域的なつながりを提供することが必要である。

(2) 復興の取組と教訓を踏まえた提言集（仮称）について

主な発言内容は次のとおり。

[平山委員]

- ・ 各市町村における問題であるが、計画策定や土地収用などを進めていく上での人材不足が課題となっていたと思う。各市町村にそれぞれの時期の課題や苦勞を聴取してもらいたい。

[小野寺委員]

- ・ 地域住民の合意形成に尽力された自治会長の意見も参考になると考えている。まちづくりなどの施策について、市町村の中でも行政主体で進めた地域と住民主体で取り組んだ地域と両方あるが、住民の満足度などに違いが生じている場合もあるのではないかな。

[齋藤委員長]

- ・ これまで復興計画の策定などに取り組んできた当委員会としての総括もどこかに記載したいと考えている。復興施策の方向性の議論など委員同士の座談会での意見なども参考になるのではないかな。

岩手県東日本大震災津波復興委員会 総合企画専門委員会 委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
齋藤 徳美	岩手大学 名誉教授	委員長
高嶋 裕一	岩手県立大学 総合政策部総合政策学科長	新任・副委員長
小野寺 徳雄	株式会社昭和土木設計 技師長	新任
菅野 信弘	北里大学 海洋生命科学部長兼三陸臨海教育研究センター長	新任
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 常勤監査役	
中村 一郎	三陸鉄道株式会社 代表取締役社長	(欠席)
平山 健一	岩手大学 名誉教授	
広田 純一	岩手大学 農学部 教授	
南 正昭	岩手大学 理工学部 教授	(欠席)